

# ハーブソン Hokkaido 2020

## 結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

## はじめに

「ハーブソン Hokkaido 2020」は、2020年4月18日～8月16日までの期間に、北海道爬虫両棲類研究会主催で行われました。今回で9年目(8回目)となり、だいぶ回数を重ねてまいりました。本年は様々なことが起こりましたが、沢山のデータのご送付を頂き大変ありがとうございました。ご参加下さった方々に御礼申し上げます。

今回の速報は、簡易的な結果報告と競技部分の受賞の発表となっております。詳細な報告、及び結果等については、2018年～2020年のデータを蓄積の上取りまとめ、今年度内に報告書を作製する予定であります。

北海道爬虫両棲類研究会  
会長 徳田龍弘

## 調査の結果について(10/13までの集計分として)

(さっぽろ生き物さがし【賞授には関わりません】のデータはまだハーブソンへの反映がまだ出来ていないので未集計です)

### 参加チーム数：16 チーム(昨年比-12)

ばいかだ / チームやまはな / 自然ウオッチングセンター / のっばら研究所 / アマアママアマガエル  
とかち蛙探偵団 / あげは / チーム西堀 / 瑠璃の葉 / あばしり / えりも生き物調査隊 / チームきたはく  
もえ / カナヘビ探検隊 / なすび / チームカワズ

参加者数：のべ 44 名(昨年比-61) ★「さっぽろ生き物さがし 2020」は各参加チーム代表者数を計上予定

調査されたエリア：57 エリア(昨年比-44)

### 期間内調査で確認された種：14 種(昨年比-4)

ヒガシニホントカゲ / ニホンカナヘビ / コモチカナヘビ / ジムグリ / アオダイショウ / シマヘビ  
シロマダラ / ミシシippアカミミガメ / エゾサンショウウオ / ニホンアマガエル / エゾアカガエル  
アズマヒキガエル / ツチガエル / トノサマガエル

### 頂いた生息データ数：

正式記録(確認データあり)：198(-128)，参考記録(確認データなし)：22(+3)  
その他の期間記録(確認データあり)：44(+22)，特殊記録(情報提供記録)：4(-3)  
番外(史跡名勝)データ：1(+1)

### 各詳細データについて

速報データは以上です。マイナスが目立っておりますが、今年のこの状況下では、皆さんとても頑張ってくださいと思います。改めて御礼申し上げます。細かな種ごとの分布や検討については、今年度の発行を予定している「ハーブソン Hokkaido2018-2020 結果報告書」(北海道爬虫両棲類研究報告別冊)にて行う予定です。

## 受賞等について

「ハーpson Hokkaido 2020」では、調査をして下さった方々に4つの賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状及び粗品を贈呈する予定です。

### ★最優秀賞

ハーpson期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者: **チーム西堀**(9種) 2位: アマアマアマアママガエル(8種) 2位: もえ(8種)

### ★ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーpson期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです。

受賞者: **とかち蛙探偵団**(13 エリア) 次点: 自然ウォッチングセンター(8 エリア)

### ★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが複数おりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者: **カナヘビ探検隊**(1種)

### ★中島宏章賞(写真賞)

写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏( <http://hirofoto.com/> )に選定していただきました。

受賞者: **なすび**(写真題: 寄らば噛むぞ)



次点: えりも生き物調査隊: 真っ赤なエゾアカガエル



次点: アマアマアマアママガエル: ヘヴィな撮影

## おわりに

この発行物は速報ですので、簡易発表です。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、今年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」別冊版「ハーpson Hokkaido2018-2020 結果報告書」にて報告する予定です。

ハーpson Hokkaido 2020 は、新型コロナウイルスのパンデミックにより、大きな呼びかけは行わずに実施しました。また、参加された方々も「3密」を回避する傾向などがみられました。しかし、データを見ると地域的には幅広いご参加を頂き、分布調査としての質は維持できているのではないかと考えております。各地域でご参加、ご協力下さった皆様に感謝いたします。本年度は北海道新聞社野生生物基金の助成を受け、報告書の作成印刷等を行っていきます。完成を楽しみにお待ちしております。

結果について特記できるところは、やはりアズマヒキガエル(国内外来種)の上川方面での拡大傾向や、積丹町周辺エリアでのシロマダラの死骸の発見です。どちらも分布調査としては新たな生息地が見つかったというものですが、外来種の拡大確認と希少種の生息地確認では、データの質が大きく変わってきますね。例年記録の少ないニホンマムシは、今回は記録されませんでした。

本年も「さっぽろ生き物さがし」の事務局と連携させて頂き、データの共有をはかっております。

ハーpsonはデータを蓄積することに意味があります。今後も可能な限りデータを蓄積していく予定で進めていきたいと考えております。本年度は2018年～2020年の結果の取りまとめた報告書を作成します。2021～2023年のまとめを作成する際は、ハーpsonをはじめ10年という節目を含む報告書となりますので、10年でどのようなことが分かってきたか、など言及できるものを作成したいと考えております。来年、2021年のハーpsonも開催の時期が近づきましたら、お知らせいたしますのでぜひご参加下さい。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

執筆：徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・会長)

〒005-0021

北海道札幌市南区真駒内本町7-4-27 北海道爬虫両棲類研究会事務局内

会長 徳田龍弘